

すみよし



2014 イースター号 第192号

【 聖 句 】

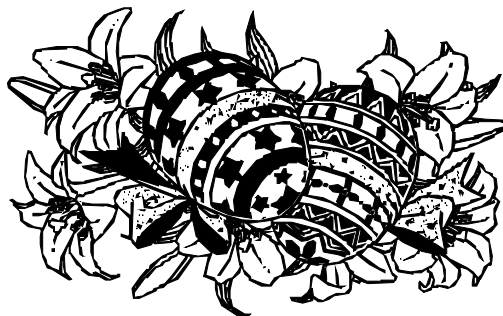
兄弟たちよ、
多くの人が教師として立つな。

私たち教師が人一倍厳しい審判を受けることは、
あなたたちも知っているとおりである。

私たちはみな多くの点で踏みはずす者である。
ことばを踏みはずさない人は、完全な人であって、
全身にくつわをつけることのできる人である。

ヤコボの手紙 : 3 章 1 節
講談社 「聖書」 1980 年刊
フェデリコ・バルバロ訳

選 : T.S.



[目次](#)

イエスとユダ —復活祭に寄せて—

赤波江 豊 神父

皆さんはイエスが弟子たちを呼び集められた時、弟子たちは何歳だったと思いますか。その時イエスは 30 歳くらいでした。30 歳の人物が弟子を集めるとき自分と同年代の人を弟子にすることはないでしょう。私はせいぜい 20 歳前、あるいはもっと若かったと思います。どうして私がこういうことを考えるかというと、あのイエスの宣教活動の間あれほど熱心に従っていた弟子たちが、いざイエスが捕えられると皆イエスを見捨てて逃げ去ってしまったあの弟子たちの弱さも、彼らが皆人生経験の少ない若者たち、場合によったらまだ少年であったと考えれば彼らを責めることはできないでしょう。そうであればイスカリオテのユダの場合はおさらです。聖書はユダのことを「裏切り者」(マタイ 10:4 など)と表現しています。でも裏切ったのなら他の弟子たちも同じように裏切ったのであり、ユダ一人を責めることはできません。確かに彼はイエスを銀貨 30 枚で売り渡しました。彼もまた一般の民衆と同じようにイエスが期待していたような政治的指導者でなかったことに失望したのかも知れません。しかしよもやイエスに有罪の判決が下されるとは思わなかったのでしょう。「ユダはイエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨 30 枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、『私は罪のない人の血を売り渡し罪を犯しました』と言った。」(マタイ 27:3~4) イエスの受難の時ユダほど自分の罪を自覚し、それを告白した弟子は他にいませんでした。ユダは本当は心の純粋な人ではなかったのでしょうか。しかし純粋すぎて早まった行動に出てしまいました。彼は自らの罪を告白したにもかかわらず祭司長や長老たちから相手にされず、失望して自ら命を絶ってしまいました。(マタイ 27:5) 彼のどこがいけなかったのでしょうか。彼は自分のせいでイエスに有罪の判決が下りてしまった。自分だけが悪い、つまり一人で責任を背負込んでしまったのです。しかし他の弟子たちにも責任はあるし、また仮にユダの引き渡し行為がなくてもイエスは十字架の死を免れることはできなかったでしょう。イエスは私たちの罪の責任を一人で背負って十字架上で殺されました。ユダはイエスの死の責任は自分一人にあると思い込んで自ら命を絶ちました。イエスは十字架上で自分を苦しめている者たちのために祈りました。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 23:34) この祈りは自分と同じ時に亡くなったユダにも向けられていました。私はイエスの復活の時、きっとユダの魂も訪れて彼を救ってあげたと信じています。

日本では年間約 3 万人の自死者がいると言われています。その中には人生経験の少ない心の純粋な青年たちも非常に多くいます。ユダもこのような青年の一人であったことを思うと何かいたたまれない気持ちになります。日本の自死者の現状と合わせながら、私たちはユダのことを決して「裏切り者」と言わず、もっと思いやりの目で見つめ直してあげたいと思います。

《 目 次 》

☆ 聖 句	T.S.	・ ・ ・	2
☆ 巻 頭 言	赤波江 豊神父	・ ・ ・	3
☆ 目 次		・ ・ ・	4
☆ 四旬節 黙想会	竹延 真治神父	・ ・ ・	5～6
☆ 赤波江神父様	銀祝おめでとうございます	・ ・ ・	7
☆ トゥアン神父様	・ハイ神父様 司祭叙階おめでとうございます	・ ・ ・	8
☆ 成 人 式		・ ・ ・	9
☆ 洗礼志願式	・ 幼児洗礼式	・ ・ ・	10
☆ 新 年 会		・ ・ ・	11～12
☆ 特集 「聖パウロ三木と住吉教会」		・ ・ ・	13～18
☆ 阪神・淡路大震災 追悼ミサ		・ ・ ・	19
☆ 病者の塗油・灰の水曜日		・ ・ ・	20
☆ 教会学校 遠足・卒業式・修了式		・ ・ ・	21～22
☆ 図書コーナーから	「寅さんとイエス」	O.N. ・ ・ ・	23
☆ 後 記		・ ・ ・	24

題字 : 山際 純子
表紙画 : 多月 弥生

《 四旬節黙想会 》 2014・3・2(日)

竹延 真治神父

(クラレチアン宣教会・日本管区長)



竹延神父様は昨年復活祭まで枚方教会の主任を務められ、現在は枚方市内のクラレチアン会の修道院で、昨年、待降節黙想会をご指導くださった梅崎神父様とブラザーの三人で宣教活動をしておられます。赤波江神父様もご自身の黙想をこの修道院でされるなど住吉教会とご縁の深い神父様です。

黙想会のテーマ：「ありのままの私を神に捧げよう」
：「自分の中にあるねたみ、嫉妬心、劣等感と向き合う」

テーマに入る前に考えよう

まず現在の日本が置かれている状況を考えると、カトリック司教団からのメッセージと全く違っていることが分かります。

イエスの認める平和とは根本的に異なり、カトリックの霊性とも相反します。

イザヤ書 9章 1～6 節 「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。……ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。

……王国は正義と恵みの業によって今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる」

テーマに沿って：心の中のねたみや嫉妬、劣等感と向き合う

共同体の中での信徒間のもめごと、或いは神父と信徒の間でなど人間関係のもつれは、心の中にあるねたみや嫉妬心によることが多く、共同司牧の大きな壁となっています。四旬節はイエスの受難を思い起こす期間。イエスは十字架にかかるほどの罪を犯したのか？ そして十字架にかかるほど人々を愛したのになぜ？ 四旬節はこの罪と愛について考え、見つめなおす期間なのです。

[目次](#)

マルコ 14 章 55～62 「祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが得られなかった。多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、その証言は食い違っていたからである。……そこで重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。イエスは言われた。「そうです。あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、天の雲に囲まれて来るのを見る」……「諸君は冒瀆の言葉を聞いた。どう考えるか」。一同は、死刑にすべきだと決議した。

今の世の中で「自分は神である」と言う者がいたとしても、それだけで死刑にするだろうか？ ユダヤ教やファリサイ派の人たちは、ナザレの田舎から出てきた青年イエスの教に耳を傾け、信頼を寄せる人々をイエスから取り戻したかったのです。

イエスは彼らのねたみと嫉妬心に殺されたのです。

聖金曜日の受難劇の朗読の中で、群衆が「十字架につけろ」と叫ぶ箇所は、イエスの十字架の死を心の痛みとして受け止め、人を排斥することはイエスを排斥する事と同じと思い、自分の心の中にもあるねたみや嫉妬心から脱却するのが目的なのです。

「好きや嫌い」などの感情は自分ではコントロール出来ません。自分が嫉妬心を抱いていることを受け入れ、認めることが大切なこと。

受け入れ認めることで、次に来る行動を抑制することが出来る。例えば怒りにまかせて物を投げつけたり、こわしたりする前に一瞬考えてそのような暴力を押さえ込むことが出来ます。

信仰を持つ人間は、この嫉妬心をそのまま神に差し出して、受け入れて下さいと祈ります。幼いときに怖い思いをした子供が大人になってもその体験をひきずることがある。そのような感情は、その人にしかコントロール出来ないし「イライラしている」「はらを立てている」状態にあっても、ありのままの私を受け入れて下さいと祈ります。

ミサの中での奉納は、打ち砕かれた自分を直接差し出す代わりに献金する。神からの反応は遅いかもしれないけれど、必ず聞いて下さるのです。

国と国の間でも、お互いが相手に対する嫉妬心からもめごとが起こる。これをおさめるのにカトリックの教えの「謙遜な心」を見習ってほしい。その一番よい例が聖ベルナデッタの霊性と思います。ベルナデッタは自分は罪深かく、何も出来ない小さい者と認めながら、そんな自分でも神から愛されていると確信していた。日本には赦しの宗教がないので、神から赦されている、受け入れられているという心がない。

嫉妬心がイエスを傷つけたことを思い起こし、私たちも自分の家族、教会、職場の中で劣等感や嫉妬心を克服してそこから脱却し、謙遜な心で四旬節を過ごしたいと思います。

(編集部)



神父様に祝福されて

赤波江神父様

銀祝おめでとうございます

今年、司祭叙階 25 周年（1989 年 3 月 21 日に司祭叙階）を迎えられた赤波江神父様は 3 月 23 日（日）に御自身の祈念感謝ミサを

捧げられました。

叙階以来大阪教区のたくさんの教会での司牧、ローマでの学びの日々、タイでの宣教を顧みられ「今日記念に配ったカードに書いたように『ひとつのパンに生かされて』きました。」
「司祭になってミサをささげるげるときにはご聖体は高く挙げ、信者さんによく見えるようにしなさい。」と助祭の時に帰天された父上が言われた言葉を守り、その時には父上の事を想われると言われました。
叙階のお祝いに父上が作って下さった祭服を身に着け、信徒の皆さんのお祝いのカリスで主の御血を挙げ、ミサ時の足を 20 年以上支え続けてくれている靴と共に歩んできたように、これから金祝へ向けて新しく始まる歩みも共にしたいと望まれる神父様の宣教の日々を守りお導きくださいますように。

2007 年に住吉教会へ赴任して来られた時は、初夏の頃で日焼けした顔はちょっとタイの方？風。「タイのやんごとなきお方」等とニックネームがつけました。（ご存じでしたか？）今ではタイは随分近い国になり、バザーのタイカレーは住吉名物定番メニューになりました。十八番の「阪神タイガース応援歌」はこのところ鳴りを潜めたままですがお部屋では独唱でしょうか？

「（私が四国に赴任した後もただ神様を愛して）単純な信仰を歩み、ロザリオの祈りを大切にしてほしい。」と願われた神父様のこれから金祝に向かっての歩みに神様の限りない祝福がありますように。（編集部）



3/21 カテドラルで



お兄様 お姉さま
もお祝いに



神父様
ありがとう！

ドミニコ グエン クオク トゥアン神父様
ヨゼフ チョン ディン ハイ神父様

司祭叙階おめでとうございます



3月21日・春分の日（金）大阪カテドラル聖マリア大聖堂にてレオ・池長潤大司教司式司祭叙階式ミサがありました。

日本語勉強の為に住吉教会に在住された1年間の喜びと感謝の内に私達と共に歩んで下さったトゥアン助祭と、時々教会学校の子供達に係ってくださったハイ助祭の司祭叙階をお祝いするため、赤波江神父様をはじめ、侍者を務める子供達、たくさんの信徒が喜びの内に式、ミサに参列しました。ベトナムからもたくさんの神父様方が来日、在日のベトナムの神父様方と共に司祭団として式、ミサにご参列。在日のシスター方や信徒の方々も大勢参列、祈りの内に心から喜びお祝いされていました。又、ベトナムからの神父様方は新司祭のお二人と共に3月24日、住吉教会をご訪問、小聖堂でお祈りを捧げられました。2012年来日の折にご訪問下さったマン枢機卿様のお礼のお言葉を思い出し、ベトナムの皆様の信仰の深さを改めて知る思いでした。お二人が司祭として新しく歩まれる宣教の日々に、主の豊かなお恵みとお導きがありますように。



大司教と共に挨拶



司祭としてご聖体を授けられる



お祝いの方々とハイ神父様



赤波江神父様と侍者達にかこまれて

《成人式おめでとうございます》

1 月 1 2 日 (日)

「主の洗礼」のミサの中で新成人
三名のお祝いがありました。

インマヌエル M. W.
ペトロ岐部 K. F.
ヨハネ・トマス T. M.



イエス様が洗礼を受けて公生活を始められたこの日を出発点として、新しい心で健康で明るく幸せな、そしてイエス様がいつも傍にいてくださるような生活が始まりますように。主よ、この人たちの上に祝福を注ぎ、助け主である聖霊を送って下さい。智恵と理解、判断と勇気、神を知る恵、神を愛し敬う心をお与えください。

(山本神父のお祈りより)



教会から新しい聖書がプレゼントされ、それぞれがご両親への感謝、困難な時の支えであり、楽しい思い出一杯の教会への感謝を述べられました。

【夢と抱負は？】

Wさん まだはっきりとは決まっていないが、近い将来自分の進むべき道をみつけ、力を尽くして進んでいきたい。

Fさん 世界中、色々な処に出かけて行き、沢山の人々と出会い、話し、考えを聞き、そして得た経験を力として世界平和の為に働きたい。

Mさん 専攻している理系でしっかり学び、身に付けた技術で技術立国日本の役に立ちたい。

[目次](#)

《 洗礼志願式 》 3月16日（日）

ミサの中で6人の方々の洗礼志願式がありました。住吉教会4名、中央教会2名です。
主の恵みと祝福が皆様の歩まれる日々に関わりなくそそがれますように。



洗礼おめでとうございます

パウロ N.K.ちゃん 2013.12.1.うまれ



お父さんのお礼の言葉より

今日は息子の洗礼に際して、沢山の方に祝福して
頂きありがとうございました。

昨年のご復活祭に妻が洗礼を受け、その後すぐにこの子
が授り、嬉しく思うと同時に神に感謝の気持ちを改めて実
感しました。私達が感謝する気持ちが持てたようにこの子
にもしっかり見せていきたいと思います。

お母さんのお礼の言葉より

まだ3か月で連れてくるのが心配でしたが、聖歌が
始まると直ぐに気持ち良さそうに眠りました。
これからも出来るだけ教会に連れて来たいと思います。



白いドレスはおばあちゃん作です。

[目次](#)

《 2014・新年会 》

1 月 26 日（日）17：00 より住吉教会恒例の新年会が奥の会議室で開かれました。

吟味された材料の鍋は、毎年「絶品の味」として好評！！

15：00 より準備にあつまった婦人方で「料亭すみよし」のまかないは大賑わい。プロ主婦たちの手さばきの良さは近隣の料理屋さんにも引けをとりません。（自画自賛・オーバーかな？）たちまち山のような材料はいくつものトレーに美しく盛り付けられ、男性や青年、中高



生、教会学校の子供達が準備してくれたテーブルに美しく並べられました。

この会を毎年お世話下さっている T 先生の超簡単なお挨拶と、赤波江神父様の短いお祈りに続き、U 議長の音頭で乾杯の杯が交わされる頃には、湯気と共に美味しそうな匂いが

辺りに漂い始め、中高生がしっかり握ってくれた、本人達曰く「心もち堅めのおにぎり」と共に食するお鍋の味は「ビタミン愛」も入っているのか？今年も変わらず絶品！この時ばかりは肩に背負った日頃のややこしい事全て忘れ、普段はあまり話したことがない方ともおしゃべりに花咲かせながら、楽しく食べるのに専念。仕事や学校の都合で普段はあまり会えない青年達も駆けつけて、まるで大家族の兄弟姉妹の様子。



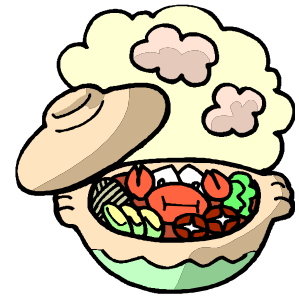
宴もたけなわの頃、中高生、青年達が「自分の夢を語る」・・・

（住吉恒例）で其々未来への抱負や夢を披露してくれました。なりたい！と願い人にも語っていただければいつか本当になるのが夢！！来年は「熟年、好奇高麗者、見果てぬ夢を語る」コーナーも設け、青年の心や、半仙（半分仙人）の心で挑戦してみませんか。



明日の教会は明るいなあ！夢はきっとかなえられるよ！！

[目次](#)



にわか作成のクイズを披露して頭の体操をさせてくれたAちゃん、今年はK氏不在で即興自作歌詞の「蘇州夜曲」は流れなかったが、水が流れるような太極拳舞を披露して下さったTさん。ありがとうございました。

きっと神様も幸せな事、楽しい事が大好きで部屋のどこかで喜びながら皆を見て下さっていたでしょう。これもすっかり伝統になった「みんなで片付ける」で美しくなった部屋は明日からのフレッシュ活動を待っている様でした。感謝！
(編集部)



《聖パウロ・三木のお祝い》

「日本二十六聖人の祝日（2月5日）」に先立ち、2月2日（日）に住吉教会の守護の聖人・パウロ三木のお祝いをしました。

1597年2月5日、長崎西坂の丘で処刑された日本二十六聖人の殉教記念日は、ローマ教会の定めでは「聖パウロ・三木と同志殉教者」の祝日とよばれています。

殉教した聖人達を偲び、自らの生きる指針を常に主に置き、死を前にしても揺らぐ事のなかった強い信仰を想い、私達も又、共同体の中で、喜び悲しみを共に分かち合い、先人達が残された信仰を守り、育ちゆく次の世代に伝えていけますように。



日本のキリシタンに脚光 バチカンで法王「弾圧に耐え信仰守った」

フランシスコ法王の（1/15）スピーチより

彼らは17世紀のはじめ、厳しい迫害を受けました。多くの殉教者が出ました。聖職者は追放され、何千人もの信者が殺されました。日本に司祭は残りませんでした。皆追放されたのです。信徒の共同体は非合法とされながら信仰を守り、人目につかない場所で祈りました。子供が生まれた時には父や母が子に洗礼を授けました。約250年後宣教師が日本に戻った時、何千人ものキリスト信徒が公の場に出て、教会は再び栄えることができました。隠れていても彼らは強い共同体精神を保ちました。洗礼が彼らをキリストのもとに一体としたからです。これは偉大なことです。彼らは孤立し隠れていましたが、常に神の民の一員でした。教会の一員でした。私達はこの歴史から、多くの事を学ぶことができます！

（要旨・3/26 朝日新聞より）

ミサ後、パウロ三木と殉教者を想い、感謝しながら、皆で温かいぜんざいをいただき、身も心もほっこりして其々の家路に着きました。



祭服は殉教の血の色の赤です



皆でぜんざいをいただきました

この日を記念して教会HPに新たに聖パウロ・三木の項目が加えられました。

「すみよし」にも抜粋して掲載しますのでお読み下さい。

聖パウロ・三木はどんな方？

特集【聖パウロ三木と住吉教会】

※ カトリック住吉教会の守護聖人は「聖パウロ三木」

カトリック住吉教会は日本にキリスト教がもたらされて以来、最初の殉教者の一人となられた聖パウロ三木を守護の聖人としています。教会創立時（1935 年）、初代主任司祭に任命されたアルフレッド・メルシェ神父は、新設された教会を日本の聖人に奉げたいと考え、「聖パウロ三木」を守護の聖人とされ、当時のカスタンニエ司教も大変喜ばれ賛成されたそうです。

理由としてはおそらく「摂津の国」のお生まれであり（阿波徳島、山城の説も有）又、教令で捕えられた聖パウロ三木と同志殉教者が今から 400 年以上前の 1597 年 1 月 10 日に大坂の獄から長崎西坂の刑場に引き立てられて行く途中、旧西国街道ともいわれる当教会の前辺りを通られた事が考えられます。（写真はバチカン美術館所蔵のパウロ・三木像 京都フランシスコの家の展示から撮影）



※ 聖パウロ三木について

聖パウロ三木は 1564 年（永禄元年）に武士の家に生まれ、1568 年（永禄 11 年説も有）幼少時に受洗、パウロという洗礼名を頂かれました。安土城下にセミナリオ（神学校）が開設されると一期生として学び、広く学問を修めました。22 才でイエズス会に入会。イルマン（＝修道士）としての彼は、研鑽と信仰を深め、その信仰と人柄、優れた説教の才能により多くの人々をキリストへの信仰に導きました。

数か月後には司祭になる事が決まっていた時、秀吉の禁教令により捕えられ、同志と共に長崎の西坂まで引き立てられ処刑されました。

殉教より約 300 年後の 1862 年 6 月 8 日、二十六人は教皇ピオ 9 世により列聖され、「日本二十六聖人」と呼ばれています。又、聖パウロ三木の確固たる信仰とその卓越した指導力により「聖パウロ三木と同志殉教者」とも呼ばれています。

※ 生い立ちとその生涯

- ☆ 1549 年（天文 18 年）フランシスコ・ザビエル 日本にキリスト教を伝える。
- ☆ 1564 年、聖パウロ三木、摂津の国（他説あり）に生れる。
- ☆ 父、三木半太夫は三好長慶の臣下であった。1563 年三好氏の臣下 72 名と共に飯盛山（大東市）で洗礼を受ける。（三好長慶は 1539 年、摂津守護代として越水城（西宮市）に入る。長慶自身は信徒ではないがキリスト教を良く理解し、布教活動等を赦し、キリシタンを擁護した。）

- ☆ 1568 年、兄と共に受洗。洗礼名はパウロ。
- ☆ 信長、イエズス会オルガンティノ神父に安土城下にセミナリオ開設を許す。
高山右近が援助。
- ☆ 1580 年、セミナリオの一期生となりイエズス会の教育を受ける。
- ☆ 1586 年 8 月、イエズス会に入会。最初期の日本人会員の一人となる。
彼は非凡な才能の持ち主であり、宣教師として肥前（長崎）有馬大村に布教、素晴らしい成果を上げる。その後大阪に移り、オルガンティノ神父を助け布教活動を行う。（仏教にも通じ、僧侶を論破し、改宗させた逸話も有）
- ☆ 1587 年 6 月 19 日、秀吉「伴天連追放令」をだす。
- ☆ 1596 年 12 月 9 日、禁教令下、大阪のイエズス会の家で捕縛され、12 月 31 日に京都に送られる。
- ☆ 京都一条の牢獄で、彼は、御主イエス・キリストと同じ 33 歳で御主と同じように十字架上で死ぬことを深く喜び、獄番の下級役人に天の道を説いている。彼の説教には不思議な説得力があり、多くの人が魅せられたといわれている。
当初から説教師として名を馳せていたが、彼の名が歴史に刻まれたのはその殉教と列聖による。

※ 聖パウロ三木 最後の説教

聖パウロ三木は、西坂の刑場で高い十字架上に掛けられても心乱さず、十字架を祭壇として、命のある限り説教を続けました。「全ての人々を赦す」という最後の言葉はイエスのみ旨に添い、彼の真の信仰の証として全世界で高く評価されています。

「ここにおいでになるすべての人々よ、私の言うことをお聴き下さい。
私はルソンからの者ではなく、れっきとした日本人であってイエズス会のイルマンである。私は何の罪も犯さなかったが、ただ我が主イエス・キリストの教えを説いたから死ぬのである。私はこの理由で死ぬことを喜び、これを神が私に授け給うた大いなる御恵みだと思う。
今、この時を前にして貴方達を欺こうとは思わないので、人間の救いのためにキリシタンの道以外に他はないと断言し、説明する。」

「キリシタンの教えが敵及び自分に害を加えた人々を許すように教えている故、私は国王（関白）とこの私の死刑に関わったすべての人々を赦す。王に対して憎しみはなく、むしろ彼とすべての日本人がキリスト信者になることを切望する。」

二十六聖人の殉教を直接見聞したフランシスコ会員マルセーロ・デ・リバデネイラが、マニラに追放後書き記した「パウロ三木の最後の説教」です。

※ 聖パウロ三木の生涯を貫いた強い信仰とその背景

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

(ルカによる福音書 23 章 34 節)

十字架上でイエスが言われたこのみ言葉は、聖パウロ三木の精神の根底に息づいています。では彼はどのようにしてイエスのみ心に近づいたのでしょうか。

父、三木半大夫や母マリアから伝えられた信仰、修練院での高山右近との出会い、そしてイエズス会での祈りの生活は、イエスのみ心に近づく大きな契機になったと思われます。

※ 日本二十六聖人 「聖パウロ三木と同志殉教者」について

聖パウロ三木は、日本二十六聖人の中でも際立った熱意をもって生涯を通じ布教にあたりました。彼らが布教にその生涯を奉げ、殉教した時代背景は下記のようなものです。

- ☆ 1549 年 (天文 18 年) フランシスコ・ザビエルの来日により日本にキリスト教の布教が始まる。
- ☆ 1587 年 6 月 19 日、秀吉は突然「伴天連追放令」を出し、キリスト教を禁じ (天正 15 年)、宣教師に国外退去を命じる。
- ☆ 1596 年 (慶長元年) 12 月 8 日、キリスト教が人々に浸透しすぎるのを警戒した秀吉は、フランシスコ会士、及びその信者に対する逮捕令を出す。
- ☆ 12 月 9 日、京都フランシスコ会聖堂にいたレオ烏丸、パウロ鈴木、ボナベントウラ、トマス小崎、およびガブリエルと来日したフランシスコ会員 6 人が逮捕される。
- 12 月 10 日、大阪アンドレス小笠原の家 にいたパウロ三木、ヨハネ五島、ディエゴ喜斎のイエズス会士 3 人が拘束され、京都、大阪に居た宣教師と熱心な信者協働者 15 名が つぎつぎと捕えられる。
- ☆ 1597 年 1 月 3 日、捕えた 24 人の修道会士と信者達は、秀吉の命により見せしめのために、堀川・一条戻り橋で鼻と耳を削ぎ落とされ、京都の目抜き通りを牛に引かせた荷車に乗せられて引き回される。
- ☆ 1 月 4 日未明、牢を引き出された 24 人は、大阪、堺と引き回され、堺の牢に監禁される。
- ☆ 1 月 8 日、秀吉は 24 人を長崎で磔刑にする判決を下す。

死刑宣告分

この者たちはルソンの死者と称し、我が国に来て京に留まり、過ぎし年厳禁せるキリシタンの法を広めたり。因りてその法を奉ずる日本人と共に死罪に処する者なり。

ここに改めてキリシタンの法を禁制する。諸人とくと心すべし。違ふ者あらば一族郎党ことごとく死罪たるべし。

慶長元年一月二十日 (1597 年 1 月 8 日)

堺の奉行所の前に布告された。

[目次](#)

- ☆ 1 月 9 日、大阪を出発した殉教者達は、後に殉教者に加わったペトロ助四郎と、フランシスコ吉の 2 人と共に、酷寒の中、素足に薄衣で遙かな殉教の地長崎・西坂の丘へ向かって歩き始める。

京都から長崎までの長い道のりの中でパウロ三木は、その才気で皆を励まし、またフランシスコ会員やイエズス会士と、司祭、修道者、信徒の全てを励まし、道中で説教を行い、西坂に到るまでその指導力を発揮し信仰を貫くよう皆を励まし続けました。

2 月 5 日の朝、西坂の丘は処刑される殉教者を一目見ようとする人々で埋められていました。殉教の地へたどり着いた二十六人の殉教者達は、その場で十字架に縛り付けられ、その十字架は一行に並べて西坂の丘に建てられました。処刑が始まり、若い修道士フィリッポ・デ・ヘススが槍で突かれ、最初の血を流しました。アントニオとルドビコの 2 人の少年は賛えの歌「子らよ、主をたたえよ」を歌い、その歌が終わるか終わらぬうちに槍で突かれました。こうして次々に処刑は進み、最後にペトロ・バプチスタ司祭が尊い血を流して、処刑は終わりました。

※ 日本二十六聖人の列福と列聖

日本での二十六人の殉教は、すぐにローマに伝えられその信仰の強さはローマで驚きと崇敬の対象となりました。イエズス会やフランシスコ会等で列福運動も始められ、僅か 30 年後に「二十六人が列福」されている事をみても当時の反響の大きさがわかります。

- ☆ 1597 年 2 月 5 日 長崎の西坂で磔刑。

この出来事はすぐにイエズス会によりローマに報告。列福運動となる。

- ☆ 1627 年 9 月 14 - 15 日 教皇ウルバノ 8 世により列福される。

二十六人の殉教から僅か 30 年余の早い列福は、この殉教が示す信仰がヴァチカンでいかに崇敬されていたかがわかる。

- ☆ 1862 年 6 月 8 日 教皇ピオ 9 世により列聖される。

殉教から 265 年後、ピオ 9 世、彼らを「日本二十六聖人」に上げる。

江戸幕府が開国へと舵を切った年であり、日本での宣教の再開に望みを託したとも思われる。

- ☆ 1597 年 2 月 5 日の日本二十六聖人の殉教記念日は、ローマ教会の定めでは「聖パウロ三木と同志殉教者」の祝日と呼ばれている。

※ 日本二十六聖人「聖パウロ三木と同志殉教者」殉教後の日本の信仰

豊臣から徳川の治世になっても、キリスト教禁教令は続き、弾圧と殉教が繰り返され信仰は途絶えたかに思われましたが、信徒の強い信仰は秘かに受け継がれていました。明治に入り新たな動きがあり、その数年後ようやく日本にもキリスト教が復活しました。

[目次](#)

- ☆ 1859 年 禁教令が緩和されパリミッシン会の宣教師が来日。外国人居留地区が設置されそこに居を於いての宣教が始まる。
- ☆ 1864 年（元治元年）12 月 29 日 大浦天主堂完成。
1865 年（慶應元年）2 月 19 日 献堂式。
- ☆ プチジャン初代主任司祭を浦上在住の信徒が訪れる（信徒発見）このニュースは驚きと共に広まるがまだ禁教令は緩和されたといっても継続しており、新たな迫害が始まる（浦上四番崩れ、五島崩れ等）が諸外国から非難され、外圧により明治政府は 1873 年（明治 6 年）禁教令廃止を布告。
- ☆ 1899 年（明治 32 年）公式に布教がはじまる。

ルカ神父と
生野教会出発



2・21
26 聖人巡
礼ウオーク

住吉からも参加



- ☆ 聖パウロ三木を守護聖人とするカトリック教会
住吉教会、泉南教会、徳島教会、甲賀教会、福岡・西新教会、諫早教会、福島桑折教会、北海道池田教会、岩手久慈教会
横浜司教座山手教会の右脇祭壇に侍姿のパウロ三木の絵が掲げてある。

☆ 聖パウロ三木の聖遺物

聖パウロ三木の遺骸は 80 日間さらしものにされていたが、関白の許しを得てフィリピン等に運ばれその後、プチジャン司教（長崎の信徒発見）が日本に持ち帰り、現在はショファイユ幼きイエズス修道会聖堂（西宮市仁川高台）に安置されています。

- ・京都市のフランシスコの家（現在は閉鎖中）にも 1993 年に分骨されて遺骨がありました。（詳細は生野修道院にお問い合わせ下さい。）
- ・泉南教会にもパウロ三木の聖遺物があります。

☆ 日本二十六聖人を守護聖人とするカトリック教会

大浦天主堂、日本二十六聖人記念聖堂、丸山、大籠、大河原、佐野、鹿島、本所、二俣川、二宮、吉田、太閤山、美濃加茂、宇治、高槻、関目、萩、時津、島原、田平、堂崎、日向、指宿、出水、手花部、チヴィタヴェッキア（イタリア）、ブラッドフォード（カナダ）・・・

- ・シチリア・パレルモの教会に日本二十六聖人の 3 人のイエズス会員を記念する脇祭壇がある。

[目次](#)

《 阪神淡路大震災追悼ミサ 》

2014・1・17（金）

大震災から 19 年目になるこの日、聖堂で赤波江神父様司式の追悼ミサが捧げられました。震災で召された住吉教会ゆかりの 3 名の方のご家族と共に、犠牲になられたすべての方のために祈り焼香を致しました。

今、教会・幼稚園の門のところに立って周りを眺めると、家並みは大きく変わりました。以前あったタクシー会社がなくなりその後に瀟洒なマンションが出来ました。震災を共に体験し、助けあった方々の中でもたくさんの方が天国へ召されました。あの困難な生活を強いられた頃の事・・・沢山の援助を頂いた事・・・新聖堂完成まで神父様方もご不自由な生活を耐えて下さった事、等々・・・を話題にすることも少なくなりました。皆が忘れていたのではなく心の奥に納めていると思います。そしてこの大事な記憶は震災を知らない若い方々に語り継いでゆかなければと思います。

未曾有の震災と言われた日々を乗り越えて、今また平和な生活を得た私達は、3 年前の東日本大震災で被災された方々の事を想わずにはいられません。今もまだ傷癒える事なく、辛さの中に日々過ごしておられる方々に一日も早く安心して暮らせる日々の来る事を切に主に願い祈ります。

（編集部）



19 年の月日が流
れましたがあの震
災で亡くなられた
尊い命を忘れる事
はありません

神父様の焼香に続き
参加者も亡き人を
想い祈りの内に
焼香しました。



《 病者の塗油 》

カトリック教会では2月11日は病者の日です。住吉では2月9日(日)のミサの中で「病者の塗油」が行われ、多くの方が与りました。教会に来ることがかなわず、病院や自宅で療養中の方々に主の深い慈しみと平安がありますように。



《 灰の水曜日 》



3月9日19:00より灰の水曜日のミサがありました。この日から四旬節に入りました。昨年、枝の主日に頂いた枝は集められ、レジオ・マリエの方々が準備された灰は司祭に祝福され、私達の頭に塗布されました。

キリストの死と復活を想い、毎日の生活の中でたとえ5分間でも静かな祈りの時を持ち、好きな物を少し我慢して蓄えたお金を「愛の献金袋」に入れて布施する。人の罪を赦す為に、自分の命さえ与えて下さった主に感謝し、小さな犠牲を奉げながら、良い準備をして復活祭を待ちたいものです。



土から出て土に帰っていく私たちが、四旬節の務めに励み、ゆるしを受けて新しい命を得、復活された御子の姿に与ることができますように。
(灰の祝福の祈りより)

[目次](#)

教会学校遠足

夙川教会 3月1日

楽しい遠足になりますように
今日1日お守り下さい



3月1日(土) あいにくお天気は曇りのち雨でしたが、子ども24名、リーダー10名の計34名で82年の歴史ある関西では屈指の夙川教会へ遠足に行ってきました。塔に登り「あめのきさき」の曲を奏でる12時のアンジェラスの鐘の音を真近で聴くという貴重な経験をさせて頂き、夙川教会の方々に大変お世話になりました。なんとタイミング良くラッキーな私達。やはり今回も神様のお恵みがいっぱい!!!



久々の遠足。曇り空もなんのその…元気いっぱいの子どもたち



信徒館での昼食



阪急夙川駅近くの公園で



もうすぐ 12 時
どんな音がするかな？
と息をのむ瞬間・・・



御聖堂での記念撮影

朝、十時に教会でおいのりして
から遠足に行きました。つくまで
行くところは、ひみつで、わかりま
せんでした。電車をおりて、歩いてい
くと、しゅく川教会でした。まず三つ
のかねを見せてもらいました。とても
大きいのは、ゴーンとなり、びぐりほた。
中くらいのは、ボンとなりました。小さい
のは、コーンとなっていました。
なかなか見れないものらしかった
ので、みんなで行けてよかった
です。それから大きなおにぎりを
食べて、近くの公園であそび
ました。はじめてシーソーにのって
とてもおもしろかったです。



[目次](#)

《 図書紹介 》



「寅さんとイエス」 米田彰男 著 筑摩選書

2012年7月15日 初版第一刷発行

この本が一昨年の夏に新聞の書評欄で紹介されたときに、迷わずアマゾンで即日入手した1人として、日本の心の故郷とも言える存在になっている寅さんと、西欧社会の基盤を成す神の子イエスとを、同じ土俵の上に乘せて論じた興味深い比較論をご紹介します。

何を隠そう、私は大の寅さんファンです。学生時代から「男はつらいよ」と「釣りバカ日誌」の2本立ては、(勿論、今の妻との)毎年恒例の正月のデートコースでした。今年1月に三宮そごうで開催された山田洋次の監督50周年記念展を見に行ったのを機に、あの寅さんの生き様に淡い憧れを抱きつづける一方でキリスト者でもある自分を思い起こして、改めて「寅さんとイエス」の本を手にとって読み返してみました。

寅さんに扮する故渥美清さんの奥様が熱心なクリスチャンで、渥美清さんご本人は逝去される直前の病床で洗礼を受けられたとか。そんなことから、寅さんとイエスには、何か深いところで通じるものがあるのではないかという予感や期待を抱いていたところ、そのものずばりの「寅さんとイエス」というタイトルを見つけたので小躍りして手に取った憶えがあります。多くの日本人には縁遠く感じられる西欧文化代表のイエスと日本人の心の故郷ともいえる寅さんのどこに共通点を見出しているのか。また、「男はつらいよ」の監督の山田洋次氏は東大を出て、松竹に入社し、日本を代表する映画監督になったという変わり種ですが、そのインテリ芸術家がフーテンと彼を取り囲む人々との人間模様に、どんなメッセージを込めようとしていたのか。ドミニコ会出身のカトリックの司祭で、カナダ、スイスで哲学、神学を修めた、こちらもかなりのインテリである、この本の作者の米田彰男氏が、イエスをフーテンとインテリとの関わりでどのように論じるのか。本を読むにあたって、興味深い視点がいくつもありません。

実際、インテリの対極にある寅さんが、旅に出るは悩み苦しんでいる人に手を差し伸べ、いつの間にか女性に惚れて、故郷の柴又でひと悶着起こした末に、恋に破れてまた旅に出る。まあ、確立されたといっているほどワンパターンな「男はつらいよ」の形式の中に、聖書に描かれるイエスの行動様式との類似性を探しながら本を読み進めると、いずれもインテリにはまねのできないスケールで人と関わっていく姿が描かれているのに気づかされます。

本の目次からそのキーワードを拾うと、色気、情欲、女性、フーテン、甘え、つらさ、ユーモア、インテリといった我々の知るイエス様とは相容れない言葉がちりばめられ、最初は違和感を持ちますが、聖書のシーンや「男はつらいよ」の場面を縦横無尽にたどりながら、ユーモア豊かに、その共通性を紐解いていきます。話があちこちに飛ぶので、体系的に整理された比較論と構えて読むとあてが外れますが、ガリラヤやユダヤを舞台に活躍したイエスと、東京下町の葛飾柴又を拠点に日本中を旅した寅さんを、その具体的な行動に着目しながら生き生きと活写しているので、日本人としてキリスト者として大いに楽しめる一冊だと思います。

イグナチオ・デ・ロヨラ S. O.

[目次](#)

《 後 記 》

主イエスキリストの御復活おめでとうございます。
時は春、暖かい陽光の下新しい息吹に花も喜び踊ります。
広報チームも新しくよみがえります。
私事ですが、皆様のお祈りの力の有難さが身に染みました。
新しい広報チームにも皆様のお祈りをお願い致します。

I.

「あたたかい教会を創りましょう。」2007年の春、新しく赴任して来られた赤波江神父様がミサで言われた言葉。青年や子供達が友と肩を並べミサに与る姿を見て大切な宝物を得ているなあと思う。みんなに居場所のあるあたたかい教会は神様が心から望まれる事。「辛いに一をたせば幸せになる」とは未信者の友の十八番。私達の「その一は何？」

心が美しくなると そこいらが明るくかるげになってくる。
どんな不思議が生れてもおどろかないと思えてくる。
はやく不思議が生ればいいなあと思えてくる。 八木重吉

広報はこの春より、ヤングパワーに受け継がれます。新しい風と共に生まれ変わるスマホチームにご協力お願いいたします。 ガラケーチーム T.



「教会案内」

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
第1・第3土曜日(スペイン語)		19:00
週日ミサ	月・水・土曜日	7:00
	火・金曜日	9:30
	木曜日(聖体礼拝)	17:30
	木曜日	18:30

講座

入門講座(赤波江神父)	第1・第3日曜日	11:00
聖書の集い(赤波江神父)	金曜日	10:30, 14:00
信仰の分かち合い(信徒)	第2・第4日曜日	11:00

評議会 第3日曜日 11:00

教会学校 第1・第3土曜日 14:00~16:00

野宿者支援炊出し 第1土曜日 9:30 住吉教会集合

「すみよし」第192号

発行日 : 2014・4・20

発行責任者 : 赤波江 豊神父

編集・印刷・発行 : 広報チーム

発行所: 神戸市東灘区住吉宮町

2-18-23

カトリック住吉教会

TEL : 078-851-2756

FAX : 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>